

くらしの目線で市政を変える

こんにちは  
日本共産党

市会議員  
西野さち子です



生活破壊の「京プラン実施計画」を許さないたたかいに全力をあげよう!



「京プラン実施計画」は市民生活を破壊し、自治体を変質させる

6月18日、日本共産党市会議員団は見解を発表しました。

門川市長は、4年間で250億円もの市民サービスを切り捨てるための実施計画を今年3月に発表しています。市民のいのちや暮らしに重大な影響を与えますから、市民の皆さんにその内容をお知らせして、一緒にこの計画を押し返す必要が有ります。ひと暮らしの高齢者のいのちの安全にかかわる「緊急通報システム」の利用料を値上げし、その一方で「いろいろな人は取り外します」という案内を出しています。市営保育所の民間移管、保育料の負担増などは保育の公的責任の放棄です。高すぎる国民健康保険料の滞納世帯には差し押さえを押し進めています。その一方で年間20億円もの運転経費が必要な焼却灰溶融施設、京都駅の建設費用が2200億円も必要なりニア中央新幹線などのムダ使いは進める計画です。

お知らせ

7月8日(日)

午前10時 醍醐自治会館

午後2時 醍醐いきいきセンター



府市議会報告会 のご案内

水垂埋立地にメガソーラー

7月1日大雨の中、水垂埋立処分場のメガソーラー発電所のスイッチが入られました



埋め立て処分場に太陽光パネルが東京ドーム1個分に敷き詰められ、稼働が開始しました。今回は第1次の2100キロワット(2.1メガワット)で、第2次分の2100キロワットが予定されていますので、合計4200キロワット(約500世帯分)の電力が関西電力に売電されることになっています。京都市はSBエナジー(ソフトバンクの子会社)に対して、無償で土地を貸すことにしています。孫社長は「原発は40年後に廃炉になって、核廃棄物を残すが、太陽光発電は20年たてば、発電機能が残る」「子どもたちに安全なエネルギー」と挨拶しました。



水垂に建設されたメガソーラー開所式に参加する西野さち子市議とばばこうへい府議

第8回地域人権問題全国研究集会



来賓として挨拶する井上哲参院議員(6月30日京都テルサホール)

水平社創立90周年の今年、京都で全国研究集会が開かれ、会場の京都テルサホールには全国から会場いっぱい参加者があつまりました。記念講演は「歴史研究と部落問題の解決」と題して、近・現代史研究者の鈴木良氏。特別報告は「橋下市長が行った「思想調査」と「維新改革」の周辺」と題して、大阪市をよくなる会事務局次長の成瀬明彦氏が行いました。鈴木氏は「当時、差別や貧困は因縁だから仕方がないという仏教思想が有って、希望が見えないから子どもをつくらない」と語る青年たちが、あきらめからの脱出をして水平社をつくった。大変なことだ。「人権問題を見るには、同和問題と言っ小さな視点ではなく、世界史の中の問題としてみる必要がある」と述べられました。

